

ITU-T SG15 会合 (9/28-10/9) WP2 課題別対応方針

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q5-課対	Q.5 対応方針
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q6-課対	Q.6 対応方針
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q7-課対	Q.7 対応方針
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q8-課対	Q.8 対応方針
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q16-課対	Q.16 対応方針
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q17-課対	Q.17 対応方針
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q18-課対	Q.18 対応方針

ITU-T 会合への課題別対処方針

(会合名：ITU-T SG15 第2回会合)

提出元：日本代表団

課題番号	課題名	原題	Characteristics and test methods of optical fibres and cables
5		和訳	光ファイバとケーブルの特性と試験方法
	ラポータ名 (所属)		副：Paola REGIO (TI、イタリア)
<p>課題の内容：</p> <p>光ファイバとケーブルの特性、並びに線形パラメータ、非線形パラメータ、及びフィールド試験法の検討を行う。</p>			
<p>これまでの経緯：</p> <p>前会期では、WDM伝送の促進を目的とした、既存光ファイバ勧告G.65xにおける波長分散特性の詳細化や、フィールド試験法 (G.650.3) の新規勧告化を実施した。</p> <p>今会期は、アクセス系の光化、既存設備の有効活用、並びに高速・WDM伝送への対応を目的とした、光ファイバケーブルの特性及び試験法の制改訂に関する議論が行われる予定である。</p>			
<p>今会合での主な検討項目：</p> <p>今会合では、シングルモードファイバ (G.652)、非零分散シフトファイバ (G.655)、低曲げ損失シングルモードファイバ (G.657) 並びにフィールド試験法 (G.650.3) の改訂に向けた議論がなされる予定である。</p> <p>また、光ファイバの実使用環境における特性について記述する、新規補足文書 (G.Sup.gafc) の初版合意に向けた審議がなされる予定である。</p>			
<p>他SG、他機関との関連：</p> <p>光ファイバとケーブルの特性及び試験法に関しては、Q.8、Q.16、並びにIECと、光通信システムに関しては、Q.6及びQ.7と関連している。</p>			
<p>注意すべき諸外国の動向：</p> <p>前会合において勧告G.652及びG.655におけるスコープの変更、並びに勧告G.657における新規カテゴリの追加が米国より提案されている。</p>			
<p>提出寄書： 4件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 勧告G.650.1 (線形パラメータ試験法)、Appendix IIの改訂提案 (NTT) 2) 新規補足文書G.Sup.gafc (光ファイバの実使用環境特性) に関するコレスポンスサマリ及び初版ドラフト (NTT) 3) 勧告G.652及びG.655の損失規定に関する記述詳細化の提案 (線材協会、NTT) 4) 光ファイバ及び光ケーブルの特性と試験方法 (SBTM) 			

対処方針： ■A:達成すべき事項あり □B:達成すべき事項なし □C:静観

- 1) 勧告G.650.1、Appendix II改訂の合意
- 2) 新規補足文書G.Sup.gafc初版の合意
- 3) 改訂勧告G.652及びG.655コンセント
- 4) 勧告G.650.3の改訂検討に向けた積極的寄与

勧告案一覧

勧告番号	種別	勧告名 (日本語名)	関連文書番号 (更新時期)	合意予定 時期	エディタ (所属国)	対処及び今会合での課題
G.650.1	改訂	線形パラメータ試験法	(2004-06)	2010	J. Luo YOFC (中国)	A : Appendix IIの改訂提案
G.650.2	改訂	PMD及び非線形パラメータ試験法	(2007-07)	2010	J. Luo YOFC (中国)	C : 審議予定無し
G.650.3	改訂	フィールド試験法	(2008-03)	TBD	M. Cheng YOFC (中国)	A : マクロベンディング検出方法の改訂提案
G.651.1	改正	アクセス用マルチモードファイバ	(2007-07)	TBD	G. Kuyt Draka- Comteq (オランダ)	C : 審議予定無し
G.652	改訂	シングルモードファイバ	(2005-06)	2009-10	G. Kuyt Draka- Comteq (オランダ)	A : 損失規格に関する記述の詳細化
G.653	改訂	分散シフトファイバ	(2006-12)	2010	忠隈 線材協会 (日本)	C : 審議予定無し
G.654	改訂	カットオフシフトファイバ	(2006-12)	2010	石川 線材協会 (日本)	C : 審議予定無し
G.655	改訂	非零分散シフトファイバ	(2006-03)	2009-10	G. Kuyt Draka- Comteq (オランダ)	A : 損失規格に関する記述の詳細化
G.656	改訂	広波長域非零分散ファイバ	(2006-12)	2010	谷川 線材協会 (日本)	C : 審議予定無し
G.657	改訂	低曲げ損失シングルモードファイバ	(2006-12)	2009-10	G. Kuyt Draka- Comteq (オランダ)	A : 半径7.5mm未満の規格化に対する方針明確化
G.Sup40	改訂	光ファイバケーブルガイドライン	(2006-11)	2010	中島 NTT (日本)	C : 審議予定無し

G.Sup.gaf c	新規	光ファイバ実使用環境 特性				A : 初版合意
----------------	----	------------------	--	--	--	----------

(注) 種別には新規、改訂(revision)、付属書(Annex)、改正(Amendment)、訂正(Corrigendum)の別を記載。

ITU-T 会合への課題別対処方針

(会合名：ITU-T SG15 第2回会合)

提出元：日本代表団

課題番号	課題名	原題	Characteristics of optical systems for terrestrial transport networks
Q.6		和訳	陸上伝達網における光システムの特性
	ラポータ名 (所属)		正：P.Stassar (Finisar, USA)、副：P.Anslow (Nortel Networks, 英国)
<p>課題の内容：</p> <p>陸上系の光伝達ネットワークに適用される光伝送システムの特性および光インターフェースについて標準化を行う。波長多重伝送、超高速光伝送（40 Gb/s、100Gb/s）などが主な検討内容である。</p> <p>これまでの経緯：</p> <p>前会合では改訂補助文書 G.Sup39 [光システム設計]を合意した。</p> <p>今会合での主な検討項目：</p> <p>改訂勧告G.959.1[OTNドメイン間インターフェース]、改訂勧告G.697 [DWDMシステム用光モニタ]、改訂勧告G.695[CWDMインターフェース]、改訂勧告G.698.2[単一チャネルインターフェースを有する光増幅DWDMアプリケーション]、改訂勧告G.693[イントラオフィス用光インターフェース]の合意を目指す。改訂勧告G.696.1 [ドメイン内WDMアプリケーション]に関しては、高速(40G/100G)光インターフェースに関する議論を継続する。</p> <p>他SG、他機関との関連：</p> <p>100GbE転送技術に関してはIEEE 802.3baと関連している。100G変調方式に関してはOIFと関連している。</p> <p>注意すべき諸外国の動向：</p> <p>光インターフェースの規定、高速光伝送方式などに関して、諸外国の動向把握を行う。</p> <p>提出寄書：1件</p> <p>(1) Proposal for a revision of Recommendation G.696.1 for 100G application code [100Gアプリケーションコードに対する勧告G.696.1改訂提案] (NTT)</p> <p>対処方針： ■A:達成すべき事項あり □B:達成すべき事項なし □C:静観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100G光伝送方式に対する標準化検討の活発化に努める ・ 3月の中間会合以降のコレポン活動で提案した10G CWDMインターフェース仕様について、改訂勧告G.695に正しく反映され、コンセントされるようにフォローする 			

勧告案一覧

勧告番号	種別	勧告名 (日本語名)	関連文書番号 (更新時期)	合意予定 時期	エディタ (所属国)	対処及び今会合での課題
G.959.1	改訂	OTNドメイン間インタフェース	TD97 (PLEN/15) 2009-10	2009-10	P.Anslow Nortel Networks (イギリス)	B:新規アプリケーションコードの追加
G.695	改訂	CWDMインタフェース	2009-10	2009-10	P.Stassar Finisar Corporation (アメリカ)	A:10G光インターフェースの追加
G.696.1	改訂	ドメイン内WDMアプリケーション	(未)	TBD	A.Mattheus Deutsche Telekom (ドイツ)	A:高速インターフェースに関する議論
G.697	改訂	DWDMシステム用光モニタ	TD68 (WP2/15) 2009-10	2009-10	S.Beccia Huawei Technologies (イタリア)	B:Appendixに追加する信号光モニターに関する議論
G.680	改訂	光伝達関数	(未)	TBD	S.Cascelli Ministry of Communications (イタリア)	B:各種パラメータ、用語の見直しなどの議論
G.698.2	改訂	単一チャネルインタフェースを有する光増幅DWDMアプリケーション	TD96 (PLEN/15) 2009-10	2009-10	B.Teichmann Alcatel-Lucent (ドイツ)	B:10Gb/s、50GHz間隔アプリケーションコードの追加
G.693	改訂	イントラオフィス用光インターフェース	TD101 (PLEN/15) 2009-10	2009-10	P.Stassar Finisar Corporation (アメリカ)	B:分散値の見直しなどを議論
G.Sup39	改訂	光システム設計	(未)	TBD	T. Hoshida 富士通 (日本)	C:特になし

(注) 種別には新規、改訂(revision)、付属書(Annex)、改正(Amendment)、訂正(Corrigendum)の別を記載。

ITU-T 会合への課題別対処方針

(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本代表団

課題番号	課題名	原題	Characteristics of optical components and sub-systems
7		和訳	光部品及びサブシステムの特性
	ラポータ名 (所属)	正: Mattheus氏 (DT, ドイツ) 副: Erreygers氏 (Tyco, ベルギー)	
課題の内容: 主に光伝達網、光アクセスシステム及びアクセス系光媒体網で使用される光部品及びサブシステムの特性についての勧告を行う。ハンドブックの制定・修正。			
<p>これまでの経緯:</p> <p>前会合において、PON用光スプリッタの波長帯規定を修正したG.671の改訂勧告草案が合意され、その後AAPにて承認された。スプリッタ仕様についてはQ2/15と共同で議論を進めているが、保守波長帯の規定については合意に至らず、継続審議することとなった。しかし、現時点ではコレスポネンズでの審議が開始されておらず、動向把握するにとどまっている。L.50所内用光配線架の改訂勧告草案がTDで提出されたが、会合では審議されず、次会合で継続審議することとなった。</p>			
<p>今会合での主な検討項目:</p> <p>(1) 改訂勧告草案 L.50「所内用光配線架」の勧告草案の審議。</p> <p>(2) Lシリーズ勧告の整理・統合に向けた審議及びエディタの決定。</p>			
<p>他SG、他機関との関連:</p> <p>IEC SC86Bは光受動部品、光収納用品の光学的特性・耐環境特性などを検討しており、本課題と密接に関連する。</p>			
<p>注意すべき諸外国の動向:</p> <p>G.671に関しては、前会合において米国より光スプリッタの波長帯及び挿入損失の修正を求める提案が出ているが、合意に至らず継続審議となっている。</p>			
<p>提出寄書: 2件</p> <p>(2) G.671におけるPON用光スプリッタ仕様の提案 (NTT)</p> <p>(3) Proposal to promote discussions on optical components for advanced modulation/demodulation schemes used for high-speed large-capacity WDM [高速大容量WDMシステムのための高度変調方式における光部品の議論の提案] (NTT)</p>			
<p>対処方針: <input checked="" type="checkbox"/>A:達成すべき事項あり <input type="checkbox"/>B:達成すべき事項なし <input type="checkbox"/>C:静観</p> <p>・Q2と共同で議論を進めているG.671のPON用光スプリッタの保守波長帯については、前回会合で合意に至っていないが、コレスポネンズでの議論も開始されていない状況であるため、今回は議論の動向把握に努める</p> <p>・L.50については既存勧告との変更点を確認し、必要があれば修正を求める。</p> <p>・今後重要となる40Gb/s、100Gb/s級の高速信号伝送を可能とする新たな光変復調方式に対応した光部品特性についての議論を促進、先導する。</p>			

勧告案一覧

勧告番号	種別	勧告名 (日本語名)	関連文書番号 (更新時期)	合意予定 時期	エディタ (所属国)	対処及び今会合での課題
G. 663	改訂	光増幅器のデバイス とサブシステムの応 用的側面	2000-04	TBD	T. Hoshida 富士通 (日本)	C : 改訂に向けた検討を開 始することを前回合意した が、現状具体的な動きは無 い。
G. 671	改訂	光部品及びサブシス テムの伝送特性	2009-01	TBD	B. Teichman Alcatel- Lucent (ドイツ)	A : 新規光変復調方式に対 応した光部品特性について の議論を開始する。
L. 12	改訂	光ファイバの接続	2008-03	2009	J. Erreygers Tyco Electronics (ベルギー)	C : 審議予定無し
L. 18	改訂	浅海光ケーブル用ク ロージャ	2008-05	2009	J. Erreygers Tyco Electronics (ベルギー)	C : 審議予定無し
L. 50	改訂	所内用光成端架の要 求条件	2003-11	2009	J. Erreygers Tyco Electronics (ベルギー)	B : 既存勧告との変更点を 確認し、必要があれば修正 を求める
L.distr	新規	構内用配線ボックス	—	TBD	TBD	C : 審議予定無し
L.oxcom	新規	屋外用光キャビネッ ト	—	TBD	TBD	C : 審議予定無し
L.drop	新規	コネクタ付光ドロッ プケーブル	—	TBD	TBD	C : 審議予定無し

(注) 種別には新規、改訂(revision)、付属書(Annex)、改正(Amendment)、訂正(Corrigendum)の別を記載。

I T U - T 会 合 へ の 課 題 別 対 処 方 針
(会合名： I T U - T S G 1 5 第 2 回 会 合)

提出元：日本代表団

課題番号	課題名	原題	Characteristics of optical fibre submarine cable systems
Q8/15		和訳	光ファイバ海底ケーブルシステムの特性
	ラポータ名 (所属)		白木 和之 (NTT、日本)
<p>課題の内容：</p> <p>既存光ファイバ海底ケーブルシステム、及び試験法に関する勧告の充実、並びに新規光ファイバ海底ケーブルシステムの勧告化に向けた検討を行う。</p>			
<p>これまでの経緯：</p> <p>前会合では、新規光海底システムG.lcasub（端局間WDM無中継光海底システム）、並びにG.mdasub（単一チャンネルインターフェイスを有するDWDM無中継光海底システム）の勧告化に向けた審議を継続して行った。さらに既存勧告G.973（無中継光海底システム）、G.976（光海底システムの試験法）、G.977（光増幅中継海底システム）の改版に向けた審議を行った。</p> <p>今会合では、相互接続性を考慮した新規光海底システムの勧告化、並びに既存光海底システム勧告の充実に向けた議論が行われる予定である。</p>			
<p>今会合での主な検討項目：</p> <p>今会合では、新勧告G.lcasubのコンセントに向けたドラフトの審議がなされる予定である。また、新勧告G.mdasubについても勧告化にむけた審議を継続する予定である。</p> <p>既存勧告については、G.971（光海底システムの一般事項）の改訂、G.976の新規 Appendixとして記載が合意された光海底ケーブルのラマン利得試験法のドラフト審議、G.977改訂におけるCOTDRのパラメータ記述に関する検討等がなされる予定である。</p>			
<p>他SG、他機関との関連：</p> <p>光ファイバとケーブルの特性及び試験法に関しては、Q.5、Q16、並びにIECと、光通信システムに関しては、Q.6及びQ.7と関連している。</p>			
<p>注意すべき諸外国の動向：</p> <p>特になし</p>			
<p>提出寄書：3件</p> <p>1) G.971の改版にむけた作業装置類の用語定義の提案 (NTT)</p> <p>2) ラマン利得試験法に関するG.976の新規Appendixのドラフト案 (NTT)</p> <p>3) COTDRパラメータの定義 (CIAJ)</p>			

対処方針： ■A:達成すべき事項あり □B:達成すべき事項なし □C:静観

- 1) 新勧告G.lcasub（端局間DWDM無中継光海底システム）のコンセントに向けたドラフト作成および、G.mdasub（単一チャネルインターフェイスを有するDWDM無中継光海底システム）のドラフト作成に向けた積極的寄与
- 2) G.971（光海底システムの一般事項）、G.976（光海底システムの試験法）およびその他既存勧告のアップデートに向けた積極的寄与
- 3) G.977（光増幅中継海底システム）の改訂検討に向けた積極的寄与

勧告案一覧

勧告番号	種別	勧告名 (日本語名)	関連文書番号 (更新時期)	合意予定 時期	エディタ (所属国)	対処及び今会合での課題
G.971	改訂	光海底システムの一般事項	(2007-06)	2010	中島 NTT (日本)	A: 質問状の発出と用語定義の追加
G.972	改訂	光海底システムの用語と定義	(2008-02)	TBD	J. Wang MII (中国)	C: 審議予定無し
G.973	改訂	無中継光海底システム	(2007-06)	2010	X.Li Huawei (中国)	C: 審議予定無し
G.974	改訂	再生中継光海底システム	(2007-06)	TBD	白木 NTT (日本)	C: 審議予定無し
G.975.1	改訂	Super-FEC (Forward Error Correction)	(2003-10)	2010	田島 NEC (日本)	C: 審議予定無し
G.976	改訂	光海底システムの試験法	(2007-06)	2010	忠隈 線材協会 (日本)	A: ラマン利得試験法の追加に関する合意
G.977	改訂	光増幅中継海底システム	(2006-11)	TBD	W.Qiu China Unicom (中国)	A: C-OTDRパラメータ及び数値に関する審議・テキスト案の作成
G.978	改訂	光海底ケーブルの特性	(2006-11)	2010	中島 NTT (日本)	C: 審議予定無し
G.Sup41	改訂	光海底システムの設計ガイドライン	(2007-06)	2010	O. AitSab Alcatel- Lucent (仏)	C: 審議予定無し
G.Icasub	新規	端局間DWDM無中継光海底システム	(未)	2009-09	J. Wang MII (中国)	A: 初版ドラフト作成への積極的寄与

G.mdasub	新規	単一チャネルインターフェイスを有するDWDM無中継光海底システム	(未)	2009-09	O. AitSab Alcatel- Lucent (仏)	A : 初版ドラフト作成への積極的寄与
----------	----	----------------------------------	-----	---------	--	---------------------

(注) 種別には新規、改訂(revision)、付属書(Annex)、改正(Amendment)、訂正(Corrigendum)の別を記載。

ITU-T 会合への課題別対処方針
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本代表団

課題番号	課題名	原題	Optical physical infrastructure and cables
16		和訳	物理的光基盤設備およびケーブル
	ラポータ名 (所属)		正: Cottino氏 (Sirti, イタリア) 副: 富田氏 (NTT, 日本)
<p>課題の内容: 主にケーブルなどを敷設するために所外に展開する基盤設備、ケーブルおよびその敷設方法について勧告、ハンドブックの制定・修正。</p>			
<p>これまでの経緯: 前会合において、引き落とし用光ファイバケーブルの新規勧告作成が合意され、勧告草案のベースとなる情報を収集するためのアンケートが発出された。また、集合住宅への光配線方法に関する新規勧告の作成提案も合意された。ケーブル構造に関するITU-Tファイヤーが作成され、2009年4月に発行された。上記の2件のほか、4件の新規勧告(通信用埋設設備のマッピング方法、環境負荷の少ない細溝埋設方法、既使用基盤設備への管路およびケーブルの敷設、架空通信線路用電柱のマネジメント)を2010年までに作成することが合意されている。</p>			
<p>今会合での主な検討項目:</p> <p>(1) 今会合でコンセント予定であるL. teib「集合住宅用光ファイバ配線システム」の勧告草案審議。 (2) 次会合でコンセント予定しているL. cda「引き落とし用光ファイバケーブル」の勧告草案審議。 (3) その他、2010年にコンセントを予定している4件の勧告草案審議。</p>			
<p>他SG、他機関との関連:</p> <p>IEC SC86A WG1&WG3は光ファイバ、ケーブル構造、試験方法、敷設方法などを検討しており、本課題と密接に関連する</p>			
<p>注意すべき諸外国の動向:</p> <p>L. teib「集合住宅用光ファイバ配線システム」のエディタであるフランスが自国のレギュレーションを背景に勧告内容を決めようとしていたため是正を要求し受け入れられてはいるが、勧告草案が問題のない表現となっているか精査が必要。</p>			
<p>提出寄書:</p> <p>なし</p>			
<p>対処方針: <input checked="" type="checkbox"/>A:達成すべき事項あり <input type="checkbox"/>B:達成すべき事項なし <input type="checkbox"/>C:静観</p> <p>エディタ(日本)として提出する引き落とし用光ファイバケーブルに関する勧告草案の作成においては、日本にとって技術的不都合が無いように留意しながら、勧告化を積極的に進める。また、集合住宅の光配線法に関して、日本の状況と相違が無いよう勧告案の内容を精査し、必要があれば修正を求める。</p>			

勧告案一覧

勧告番号	種別	勧告名 (日本語名)	関連文書番号 (更新時期)	合意予定 時期	エディタ (所属国)	対処及び今会合での課題
L.teib	新規	集合住宅用光ファイバ 配線システム		2009	Landos (フランス)	日本の状況と相違が無いよ う内容を精査し、必要があ れば修正要求する
L.cda	新規	引き落とし用光ファイ バケーブル		2010	富田 (日本)	勧告素案を提示し、次会合 でコンセントできるようコ ンセンサスを得る。
L.fmun	新規	通信用埋設設備のマッ ピング方法		2010	未定	
L.limt	新規	環境負荷の少ない細溝 埋設方法		2010	未定 (イタリア)	
L.coi	新規	既使用基盤設備への 管路およびケーブルの 敷設		2010	未定	
L.mpot	新規	架空通信線路用電柱の マネジメント		2010	未定	

(注) 種別には新規、改訂(revision)、付属書(Annex)、改正(Amendment)、訂正(Corrigendum)の別を記載。

ITU-T会合への課題別対処方針
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本代表団

課題番号	課題名	原題	Maintenance and operation of optical fibre cable network
17		和訳	光ファイバケーブル網の保守運用
	ラポータ名 (所属)		正: 荒木氏 (NTT, 日本) 副: Zhuang氏 (YOFC, 中国)
課題の内容: 光ファイバケーブル網の保守運用に関する機能・試験方法についての勧告、ハンドブックの制定・修正。			
<p>これまでの経緯:</p> <p>前会合において、新規勧告案L.wsn「屋外設備の無線モニタリングシステム」について審議し、次会合に修正ドラフトを提出することとなった。また、SG13及びITU-R WP5Aにリエゾンを提出し、コメントを求めることとなった。今会期の研究計画について審議し、IDQ4/6とQ6/6をマージした新たな研究計画が承認された。</p>			
<p>今会合での主な検討項目:</p> <p>(1) 今会合でコンセント予定であるL.wsn「屋外設備の無線モニタリングシステム」の勧告草案審議。 (2) 次会合でコンセント予定であるL.ofid「光ファイバ心線対照技術」の勧告草案審議。 (3) 光ファイバ心線対照技術に関する質問状の審議。</p>			
<p>他SG、他機関との関連:</p> <p>L.wsnについては、ITU-T SG13及びITU-R WP5Aにリエゾンを発出しており、SG13からは回答リエゾンが送付されてきている。</p>			
<p>注意すべき諸外国の動向:</p> <p>韓国がエディタとなっているL.wsn「屋外設備の無線モニタリングシステム」の勧告草案の修正版について、前会合でのコメントを反映しているか、また、技術的に不都合のない表現となっているか確認する。</p>			
<p>提出寄書:</p> <p>なし</p>			
<p>対処方針: <input checked="" type="checkbox"/>A:達成すべき事項あり <input type="checkbox"/>B:達成すべき事項なし <input type="checkbox"/>C:静観</p> <p>エディタ (日本) よりL.ofid「光ファイバ心線対照技術」に関する勧告草案(TD)を提出し、日本の設備に適合する曲げ漏洩光検出による光ファイバ心線対照方式を勧告に反映し、技術的不都合が無いように留意し、勧告化を積極的に進める。また、光ファイバ心線対照技術に関する質問状をラポータ (日本) より提案し、各国における適用設備、要求条件、実現手段等に関する情報収集を行う。</p> <p>L.wsn「屋外設備の無線モニタリングシステム」に関しては、日本の状況と相違が無いよう勧告案の内容を精査し、必要があれば修正を求める。</p>			

勧告案一覧

勧告番号	種別	勧告名（日本語名）	関連文書番号 （更新時期）	合意予定 時期	エディタ （所属国）	対処及び今会合での課題
L.wsn	新規	屋外設備の無線モニタリングシステム		2009	K. Hyung-Woo KT （韓国）	B：前会合でのコメント反映を確認
L.ofid	新規	光アクセス網の光ファイバ心線対照技術		2010	荒木 NTT （日本）	A：初版ドラフト作成への積極的寄与
L.gpsm	新規	GPSを用いたネットワーク地図の作成		TBD	E. Cottino SIRTI （イタリア）	C：審議予定無し
L.omt1	新規	中継用光線路試験システム		TBD	荒木 NTT （日本）	C：審議予定無し
L.fhm	新規	センサネットワークを用いた屋外設備ヘルスマニタリング		TBD	K. Hyung-Woo KT （韓国）	C：審議予定無し

（注）種別には新規、改訂(revision)、付属書(Annex)、改正(Amendment)、訂正(Corrigendum)の別を記載。

I T U - T 会 合 へ の 課 題 別 対 処 方 針
(会合名：I T U - T S G 1 5 第2回会合)

提出元：日本代表団

課題番号	課題名	原題	Development of optical networks in the access area
18		和訳	光アクセスネットワークの設計
	ラポータ名(所属)		正：Reggiani氏(GPQD, ブラジル) 副：Delso氏(Telefonica, スペイン)
課題の内容：PONに代表される光アクセスネットワーク構成および関連架空構造物の設計に関する勧告の制定・修正。			
<p>これまでの経緯：前会合において、日本より今会期のStudy Planを提出し、FTTxにおけるPON構成に関する新規勧告(L.pon)、都市部および地方部における光アクセスネットワーク設計に関する新規勧告(L.uara)、光アクセスネットワークにおける架空構造物の設計に関する新規勧告(L.aid)の作成が合意された。FTTxにおけるPON構成に関しては、エディタより今会合に新勧告草案を提出することが合意されている。</p> <p>SG5より旧Q3/6で担当していた光網のアンバンドルに関する検討についてSG15にて取り扱えないかとのリエゾンがあり、Q18/15としてはその意見に同意し、必要があればQ18にて検討する旨を回答した。</p>			
<p>今会合での主な検討項目：</p> <p>(3) L.pon「FTTxにおけるPON構成」に関する新勧告草案の審議。</p>			
<p>他SG、他機関との関連：</p> <p>特になし</p>			
<p>注意すべき諸外国の動向：</p> <p>特になし</p>			
<p>提出寄書：</p> <p>なし</p>			
<p>対処方針： <input checked="" type="checkbox"/>A:達成すべき事項あり <input type="checkbox"/>B:達成すべき事項なし <input type="checkbox"/>C:静観</p> <p>エディタ(日本)よりFTTxにおけるPON構成に関する新勧告草案(TD)を提出し、技術的不都合が無いように留意しながら、日本主導の下で勧告化を積極的に進める。</p>			

